

幕末～明治の主な出来事

和暦	西暦	霧島	鹿児島	日本・世界
文政12年	1829		調所広郷による天保の財政改革	
天保8年	1837	石工岩永三五郎、福山宮下の石垣を築く		(中) アヘン戦争(1840)
弘化2年	1845	小村新田開発の工事始まる		
嘉永4年	1851		島津斉彬が藩主となる 集成館事業開始	ロンドン万国博覧会(第1回)
嘉永6年	1853			浦賀にペリー来航
安政元年	1854		洋式帆船昇平丸完成	日米和親条約
安政5年	1858		斉彬急死、忠義が藩主となる 西郷隆盛、月照上人と入水自殺を図る	(印) ムガル帝国滅亡
文久2年	1862		寺田屋事件、生麦事件	ロンドン万国博覧会(第4回)
文久3年	1863	敷根火薬製造所が造られる	薩英戦争	
慶応元年	1865		薩摩藩英国留学生派遣	
慶応2年	1866	坂本龍馬・お龍、霧島を訪れる (日本初の新婚旅行)	薩長同盟締結	
慶応3年	1867	桂久武、霧島桂内開拓に着手	薩摩藩、パリ万国博覧会出展	大政奉還 パリ万国博覧会(第5回)
明治元年	1868	廃仏毀釈運動が起こり、寺院が破壊される 西郷隆盛帰郷、日当山温泉に逗留する		五箇条の御誓文
明治2年	1869			版籍奉還
明治4年	1871		鹿児島県を設置(霧島は都城県)	
明治6年	1873	日当山温泉を中心に逗留する	西郷隆盛下野	明治六年の政変
明治7年	1874	鹿児島神社・霧島神社、神宮号を賜る 高屋山上陵御治定	西郷隆盛が私学校を設立	佐賀の乱 台湾出兵
明治10年	1877	霧島各地域が西南の役の戦場となる 山ヶ野金山、搦鉢所を造る	西南の役、西郷隆盛自刃	西南の役
明治11年	1878			大久保利通暗殺
明治13年	1880	隼人浜之市新田開発の工事始まる 金山道が開通(山ヶ野-竹子-加治木)		
明治22年	1889		西郷隆盛、憲法発布に伴う 恩赦で身分回復	大日本帝国憲法発布
明治27年	1894			日清戦争起こる
明治36年	1903	嘉例川駅、大隅横川駅開設		
明治37年	1904	五代龍作、山ヶ野金山鉱業館長に任ずる		日露戦争起こる
明治40年	1907	水天湖水力発電所竣工、山ヶ野金山電化へ		
明治42年	1909		鹿児島・八代間鉄道全線開通	
明治45年	1912	西郷菊次郎、山ヶ野金山鉱業館長に任ずる		明治天皇崩御



東京都台東区 上野公園【西郷隆盛像】

平成29年度 鹿児島県地域振興推進事業
霧島市・霧島市教育委員会

11 西郷公園

人物像としては日本一の大きさを誇る西郷隆盛像(高さ 10.5m)がある公園。公園は薩摩藩の別邸を彷彿とさせる門構えで、西郷隆盛や明治維新に関する資料、軍服などが展示されている。



12 西郷どんの力石

西郷が国分に狩りに来た時、付近の青年が大勢集まってきて狩の話をした。相撲をとったり、石を持ち上げて力比べをした。その時に力比べをした石が、今も国分町田さん宅の庭先に残っている。重さは約20貫目(約75kg)で縦横30cmの丸い石である。



13 牧園踊の貫^{めき}

天降川の中流域には、洞窟がありその中を川が流れている。地元ではこれを「貫」と呼んでいる。この貫を水路として活用しており、提案したのは西郷隆盛であったと言われる。活用策を提案した時期ははっきりしないが、おそらく薩摩藩内の農業を見回る郡方をしていた頃か、晩年霧島で過ごし狩りの途中に真米に立寄った時ではないかと思われる。



14 南洲翁宿営の跡碑

延岡方面での戦いで破れ、九州山地を後退してきた西郷軍は明治 10 年 8 月 30 日に(霧島)宿窪田に辿り着き、前田万兵衛宅に宿泊したと伝えられている。西郷は翌 31 日の未明に前田宅を出立して赤水、三縄を経由して蒲生に宿泊し、翌 9 月 1 日に鹿児島島の城山に入った。



15 塩浸温泉

慶応 2 年(1866)、寺田屋事件で手を負傷した坂本龍馬は、手の治療と墓府から逃れるため、西郷隆盛の勧めで妻のお龍と薩摩を訪れた。塩浸温泉で湯治(18 日間)をしながら霧島を満喫し、人生最高の日々を過ごした。龍馬の霧島の滞在は 26 日間に及んだ。



16 犬飼滝

高さ 36m、幅 22m の豪快に水が流れ落ちる様が荘厳な滝である。かつて、和気清麻呂公がこの滝で遊び、幕末の風雲児坂本龍馬も新婚旅行で、この犬飼滝を眺めたとされている。近くには和気神社、和気湯などもあり、新かごしま百景の第一位に選ばれている。



17 和気神社の楠

和気神社は嘉永 6 年(1853)、藩主島津斉彬公が和気清麻呂公流調の地と確定されたことには始まる。斉彬公は「千歳の知己の誠忠(約千年前に天皇家の危機を命懸けで守った)」を偲び、記念の松樹を手植えたが、昭和 12 年に枯死したため、孫の島津忠重公爵が楠を植樹され現在に至っている。



18 高千穂峰(天の逆針)

神々が天上界から逆さに落とした針といわれ、今も高千穂峰の山頂に残っている。坂本龍馬は新婚旅行登山の際、これを抜き、お龍とともに大笑いしたとの逸話が残っている。「実におかしき天狗の面あり 大いに二人して笑いたり」(姉乙女に宛てた手紙より)



19 霧島神宮

アマテラスオオミカミの孫であるニギノミコトが祀られている古社である。創建は 6 世紀といわれ、その後霧島山の噴火によって焼失と再建を繰り返してきた。現在の社殿は正徳 5 年(1715)に第 4 代薩摩藩藩主島津吉貴によって当地に建立・寄進されたもので、現在は国の重要文化財である。



20 華林寺跡^{はりんじあと}

華林寺は霧島神宮の別当寺として、神宮と同時期の開山とみられる。その後霧島山の噴火によって焼失するが再建を繰り返し、文明 16 年(1484)に現在の旧参道入口付近に再興した。幕末、坂本龍馬が高千穂登山をした際に華林寺に宿泊している。



21 栄之尾温泉

栄之尾温泉は延享 元年(1744)に安藤仲兵衛国広による発見と伝わり、藩主島津斉彬や忠義が入湯するなど、藩の重役も好んで利用された。慶応 2 年(1866)には長期療養していた薩摩藩家老小松平将を坂本龍馬・お龍夫妻が訪ねたエピソードは有名である。



22 桂内と桂久武

桂久武は、薩摩藩の家老職でありながら西郷隆盛とも親交があり、薩長同盟の影の立役者とも言われている。桂は近代国家になれば武士制度は必ず廃止され、多くの武士たちは失業の憂き目にあうことを予知し、その救済対策として開拓事業を思い立ったのである。霧島田口霧島神宮付近の集落を「桂内」と呼ぶ所以がこれである。



23 佳例川の戦い

都城を拠点とした西郷軍に向けて政府軍は国分方面より進軍してきて、荒磯岳・二子塚などの高台に陣を築き攻撃を開始した。この戦いで政府軍は砲弾180発、小銃弾5万発を使用し、5人が戦死して30余名の死傷者を出た。二子塚には現在も政府軍が築いた堡塁跡が僅かに残っており、地元の話では畑の耕作時に鉄砲の弾が時々見つかる。



24 陣ヶ丘(西郷軍陣跡)

熊本側の田原坂方面での戦いに敗れた西郷軍本隊はこの時期には都城にいた。西郷軍は政府軍による都城への進撃を防ぐため、日向筋(日州街道)方面と旧佳礼筋(帯野、柿木田)方面の2隊に分けて7月15日に戦端を開く。西郷軍が陣を築いた陣ヶ丘は、政府軍の陣地より標高が高く、砲撃戦では有利だったが、物資が不足して、この戦いから鉄砲弾を鉄玉とした。



25 井之口宅の刀傷跡

福山町佳例川にある井之口家に残る旧住居の刀傷痕は、明治 10 年(1877) 7 月 14 日、梅雨末期の大雨の影響や食中毒病者の療養のため、池田集落の民家に宿泊していた政府軍を西郷軍が急襲した際に出来た刀傷と言い伝えられている。



26 福山のイチョウ

宮浦宮にあるイチョウは鹿児島県内では最大級のもので、樹齢は千年以上とも言われているがはっきりしていない。向かって右の木は寛政 3 年(1791)の大火による傷痕が残り、左の木には西南の役で政府軍から受けた弾痕が残るなど、歴史の重みを感じられる。



27 国分 春山の戦い

この頃の西郷軍本隊は、人吉から後退して都城盆地を拠点に布陣しており、政府軍の進撃を防ぐため、春山にも辺見十郎太が率いる西郷軍がその一翼を担っていた。7月6日から11日にかけて、国分重久方面から進軍してきた政府軍に対して、西郷軍は春山において戦ったが、圧倒的な兵力と火力の差で後退した。春山には戦闘で亡くなった墓石が残っている。



28 霧島 大窪の戦い

人吉の攻防戦で敗退してきた西郷軍は、辺見十郎太が率いる部隊が中心となって横川を拠点としていたが、7月1日の戦闘に敗れ、踊(牧園)を経て、大窪まで転進した。大窪では霧島川を挟んで対陣したが、7月8日からの戦闘では兵員・火器ともの豊富な政府軍と連絡の不備によって後退を余儀なくされ、9日には霧島から撤退して都城へ退いた。



29 牧園 踊の戦い

人吉方面から後退して都城盆地を拠点に布陣した西郷軍本隊を防衛するため、辺見十郎太が率いる三番大隊第一小隊は、牧園の踊を拠点として陣営を整えた。その陣容は万膳の浅谷から単人境の踊城跡あたりまでの南北7km、東西5kmの範囲に300を超える堡塁を築いた。この堡塁の一部は現在でも残っている。



30 横川 二石田の戦い

横川には、明治 10 年5月から6月にかけて西郷軍の本営が置かれ、桂久武が募兵や弾薬製造、軍費調達などの兵站任務を行った。最も激しい戦闘は8月30日の戦いで、二石田から深川方面において西郷本隊が鹿児島島に向けて突破する戦いで、20時間に及び戦闘が続き多くの戦死者を出した。この戦闘で使用した堡塁が一部現在でも残っている。



明治維新 ゆかりの地

至えびの

霧島市

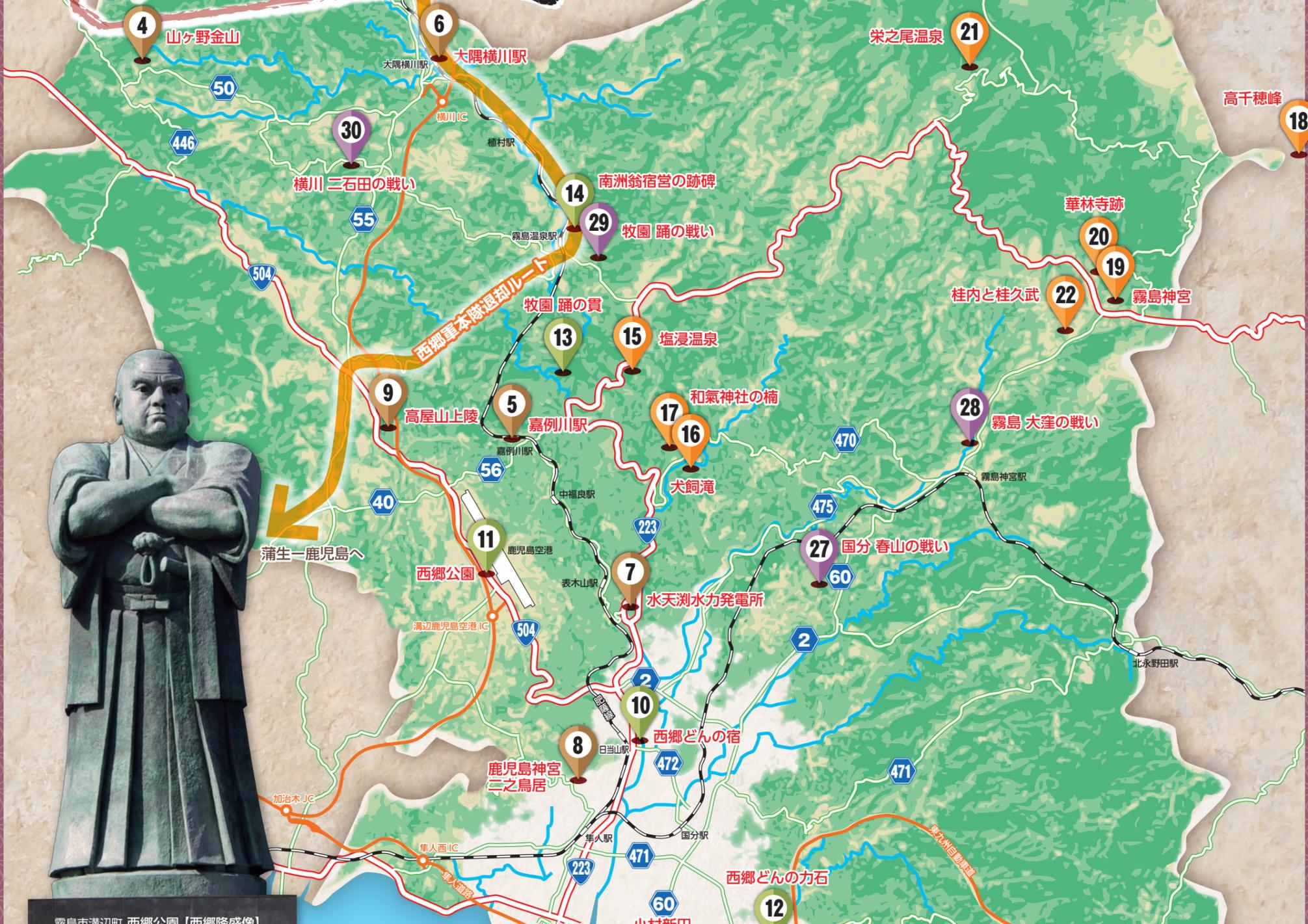
1 宮下の石垣

福山地頭仮屋は日向筋の中継地として、また都城島津家からの輸送地として薩摩藩にとっては経済上重要な地であった。仮屋の石垣は、天保の財政改革のひとつで、調所広郷が肥後の石工岩永三五郎を招いて築いたものと言われている。石垣には取水場を2ヶ所設けている。



2 小村新田

薩摩藩家老調所広郷が地方巡視で干拓適地として目をつけた。藩主島津齊興の許しを受けて、弘化2年(1845)に起工し、6年の歳月と銀9万2千貫余の巨費を投じ、120畝の水田が完成した。堤防や水門の工事は肥後の石工岩永三五郎が担当し、現在も水門の一部が残る。



霧島市溝辺町 西郷公園【西郷隆盛像】

3 敷根火薬製造所

敷根火薬製造所は、文久3年(1863)、薩摩藩は鹿児島市磯地区の集成館の裏山にあった藩の工場に加え、敷根の東端に火薬製造所を造った。西南の役が勃発すると、西郷軍への弾薬補給を阻止するため、明治10年3月に敷根沖に達した政府軍の軍艦「春日」によって焼き払われた。火薬製造の操業はわずか15年だった。



4 山ヶ野金山

山ヶ野金山は、寛永17年(1640)に宮之城領主島津久通によって発見され、良質な金鉱石にも恵まれ、日本でも有効の金産出量を誇った。明治期になると産出量も減ったことからフランス人技師のポール・オジェを招聘し近代化を図った。また、明治40年(1907)には水天測水力発電所を建設し、電化による効率化を図った。



5 嘉例川駅

明治36年(1903)、大隅横川駅と同時に開業した。現存する木造駅舎としてはこの二つが九州最古の駅舎である。開業100年を超える駅舎は、明治になってから海外から導入されたトラス構造を用いており、当時の造りを色濃く残す歴史ある大変貴重な建物である。



6 大隅横川駅

肥薩線(旧鹿児島本線)は明治36年(1903)に開業(鹿児島・吉松間)し、大隅横川駅も嘉例川駅と同時に営業開始した。駅舎の構造は嘉例川駅とほぼ同じ作りだが、ホームの柱には太平洋戦争時の生々しい機銃掃射の弾痕が残っている。



8 鹿児島神宮 三之鳥居

祭神はヒコホホデノミコトで、「延喜式」(927年完成)にも出てくる由緒ある神社。現在の社殿は江戸時代の宝暦6年(1756)に建てられ、本殿は県内最大級の規模を誇っている。参道にある三之鳥居は明治40年に加治木在住の小杉恒右衛門が寄進したもの。小杉氏は西南の役で西郷隆盛の駕籠かきとして最期まで従った人である。



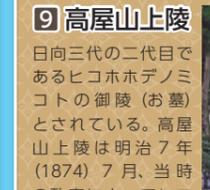
9 高屋山上陵

日向三代の二代目であるヒコホホデノミコトの御陵(お墓)とされている。高屋山上陵は明治7年(1874)7月、当時の政府によってヒコホホデノミコトの陵であると定められ整備された。陵は楕円形状の円墳で、御拝所から約60m高い山頂に築かれている。皇霊は鹿児島神宮に祀られている。



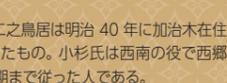
10 西郷どんの宿

西郷隆盛は明治に入ってから10年の間、よく日当山を訪れ、狩や温泉を楽しんでいた。当時宿泊していた龍宝伝右衛門は西郷ゆかりの宿として大切に守られてきたが、傷みが著しくなったため、この地に再建された。



11 西郷公園

西郷公園は、西郷隆盛の没後、明治10年に設立された。公園には西郷隆盛の銅像があり、毎年10月に西郷隆盛祭が開催される。



凡例	
	幕末～明治期 ゆかりの地
	西郷隆盛 ゆかりの地
	霧島に逗留した偉人 ゆかりの地
	西南の役 ゆかりの地
	現地案内はグーグルマップで検索

お問い合わせ先
霧島市教育委員会 社会教育課
〒899-4394 鹿児島県霧島市国分中央三丁目45-1
☎ 0995-45-5111
ホームページ / <http://www.city-kirishima.jp/>